

循環器科

先天性心臓病を中心に、心筋症や不整脈といった小児期の心臓病を、
豊富な経験と高度な技術をもとに、
先進の医療機器を用いて診断・治療する専門家集団です。

【先天性心臓病の治療】

日本小児循環器専門医 5名 を軸に、新生児循環器科、心臓血管外科、麻酔科と連携して診断と治療にあたります。先天性心臓病の治療成績は本邦トップクラスで世界レベルにあり、年間に約400例以上の心臓外科手術を行っています。入院される患者さんの半数以上は福岡県以外の方で、北海道から沖縄にいたる全国から来られます。最近では、セカンドオピニオンを求めている受診者が増加しています。外来診療は、月～金の週5日午前・午後とも複数の循環器科医により行われ、患者さんごとに医師が固定された主治医制で、原則予約制とさせていただきます。痛みを伴わず繰り返し心臓の構造や機能を検査できる心臓超音波検査は、三次元表示も可能な最新鋭機器などにより、年間9000件以上行われています。入院時は患者さんには母親が付きそわれることが多く、病棟の雰囲気は家族的で明るく、悲壮感はありません。

心臓および血管を詳しく調べる心臓カテーテル検査は、主に足の付け根からカテーテル（特殊な細い管）を血管・心臓に挿入して行われ、先天性心臓病の診断と治療にきわめて重要なものです。最新のフラットパネルディテクター搭載型フルデジタル装置が稼動しています。3泊4日の短期入院を原則とし、毎日3例（年間約600件）の検査を行います。また、外来でも心臓大血管の異常を診断できる形を検査可能な心臓CT検査（336件）／心臓MRI検査（248件）も確実に増加し、効果を発揮しています。心臓カテーテル法は病気の診断ばかりではなく、特殊な道具を使った治療も年間100件ほど行われます。異常な血管をつめるコイル塞栓術、血管・弁の狭い部分を広げるバルーン形成術、血管の狭い部分を特殊な金属で広げるステント留置術などが有効な患者さんもあります。外科治療に比べて手術の傷が小さく、入院期間も短いといった利点がある一方、長期成績が不明で、適応基準も十分には確立していないこと、コイルやステントといった人工物を体内に残す治療です。患者さんによって適否がありますので、十分にご相談の上、患者さんに治療法を選択していただきます。先天性心臓病の入院期間は、治療内容により4日から3週間が目安です。当

院を受診される心臓病の患者さんは、手術の有無にかかわらず循環器科と新生児循環器科がお世話いたします。

【不整脈の治療】

不整脈には容態が急変する恐ろしいものもあります。学校心臓検診などで発見されることがあり、原因不明な失神の原因である可能性もあります。無用な心配や生活制限をする前に、きちんと検査を受けましょう。検査では運動負荷検査（トレッドミル法；年間2200件以上）、ホルター心電図検査（400件以上）、顔面冷水潜水試験（150件以上）などが行われます。最近の不整脈治療は、薬ばかりでなく、心臓カテーテル法により心臓内の異常箇所（異常興奮部位、余分な伝導路など）を特殊なカテーテルで焼灼し、不整脈を根本から治療する方法も行われます。当科では、不整脈の起こり方をコンピューターで三次元表示する最新の診断装置（CARTO-xpシステム）を用いて、診断精度と治療成績の向上に取り組んでいます。この治療が可能な小児施設は全国的にもきわめて少なく、当科の看板のひとつです。不整脈のカテーテル治療の入院期間は4日から7日です。

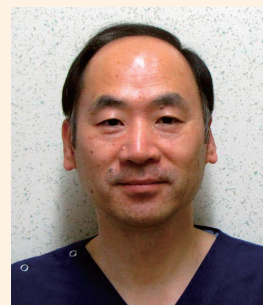


Doctor MESSAGE ドクターメッセージ

外来受診に関するお願い！

循環器外来には北海道から沖縄まで、多くの患者さまが受診されます。効率よく・内容の濃い・心地よい診療となるため、以下のことをご理解ください。

- ①受診：予約制（急患は除く）です。春・夏休みなど希望者が多い時期の対応には限界があります。
 - ②予約時間：病院の受付時間です。
 - ③時間に余裕を持って受診してください。あかちゃんから成人までの幅広い年齢層の患者さんが混在し、検査・診察に時間がかかります。検査・診察の順番は、当日の担当医が予約時間などを加味して判断させていただきます。
 - ④複数の診療科を同日受診することは避けてください。非効率的な診療となり、患者さん本人の負担ともなります。
- ※少ない専門医を上手に活用していただくために、ご協力をお願いします。



循環器科／石川 司朗